

ぷらす

出居清太郎ワールドへのご招待

No.109
2019・秋

素直さは人生の知恵

(1) お花が見事だよ、行ってごらん

「上野へ行ってごらん、お花が見事だよ」と言われたら、そうですかと素直に行けばよい。行って見たが、花はすでに散っていた。しかし、そこで旧友と偶然出会った。「いやア、久しぶりだね、一緒に食事しよう」ということになる。桜は見なかったが、友と会ったのは花を見たことである。

ある婦人が 人から美しいハンカチをも

らったので、「あなた嬉しいでしょう」とたずねた。すると、「今は汗の時節ではないし、私も持っているのです、それほど嬉しいとは思いません」ということであつた。「あなたこれをお使いください」「いいえ、私持っています」これは日常誰でも用いる言葉のやりとりであるが、たとえ持っていても人様から親切な言葉をいただいたら、気持ちよく素直に拝借できるような心になりたものである。人の親切をもつたいなく頂戴し、それ以上のものをお返しするのをま

ことの交流という。ハンカチを持っていてもお使いなさいと言われれば素直に拝借する。そうして美しいものを返せばよい。このようなまことの交流を行っていると、必要な時に、必要なだけ、物もお金も人もささずかる。

(出居清太郎先生の言葉から)

道を車で走ったり歩いたりしていると、いくつかの信号を、ひっかかることなくスーッと通れることがあります。なんとも気持ちがいいですね。

人との会話でも、スムーズに進むこともあれば、赤信号にひっかかるように、つかえつつかえのぎこちない会話になることもあります。

生活のいろんな場面において、事がスム



カット 大西 恵

ーズに運ぶこと（＝仕合わせが良いこと）を私たちは望みますが、そのことが自然に実現するために、「桜が見事だよ」と言われたら行ってみる、「どうぞお使いください」と差し出されたら、「有り難う」と借りる、といった日頃の素直な対応が大事な心掛けなのだろうと思えます。

もちろん、人の申し出をどんなことでも

受けいられるわけはありません。悪事に手を貸すことはとんでもないし、詐欺にひっかかってもいけません。逆に、よいとわかって、今の自分の状況を冷静に判断すれば、できないということもあります。

ただ、何ということはない、ちよつとした人の言葉をいわば青信号として、その流れに、打算なく素直に乗っていくということとは、人生の知恵、生活の極意（ごくい）の一つではないでしょうか。そしてその結果をすべて、これでよしとしていく。

(2) 低い心は大地の心

濁った泥水でも、砂を（素直）通ると、きれいに澄んだ水になる。人の心も低い心で素直に受け入れると、きれいな明るい気

持ちになる。

水のように、素直で低きにつき、しかし切っても切れず、石をうがつ強さを内に持つように修養せよ。

低い心は大地の心、地から力が生じる。人から言われたことが気になるのは頭（ず）が高いのである。低い心でいれば、「そうですか、有り難うございます」と、心から感謝で受けられるのである。

高い心は一番不安定である。どんと落とされれば立ち上がれない。

（出居清太郎先生の言葉から）

「驕（おご）る平家は久しからず」「実るほど頭（こうべ）を垂（た）れる稲穂かな」

ということばもよく聞きます。低い心、謙虚さが大事だという教えでしょう。

低い心というと何か弱そうですが、どうもそうではないようですね。本当に実力のある人は謙虚だと言われます。では、実力のない人は謙虚になれないのでしょうか。それは少し違うような気がします。

相手を一人の人格として尊び愛すること、それこそが低い心の基なのではないでしょうか。自分は、天地自然の恩恵によって、その秩序の中に生かされている存在だと悟ること、それこそが謙虚さの基なのではないでしょうか。

低い心、謙虚さこそ、人が生きていくらう

えでの盤石（ばんじやく）の備えと言えるのではないのでしょうか。

編集後記

上皇様は、年齢とともに、天皇としての務めを「全身全霊をもつては果たせなくなる」として退位のお気持ちを表明されました。そのお務めを、文字通り全身全霊をもつてなさってくださいる方を、「国民統合の象徴」として戴いていた平成の日本人はなんと幸せな国民だったことでしょうか。

次号は3月1日発行です。（H・Y）

令和元年10月1日発行 ふゆのあり718号付録 ぷらすα 令和元年秋号(通巻109号) 編集人 山本博也

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1 修養団捧誠会壮青少年委員会 TEL03-3971-1493